

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470301090		
法人名	医療法人ほうしょう会		
事業所名	グループホームうの花		
所在地	三重県鈴鹿市石薬師町1096		
自己評価作成日	令和3年2月24日	評価結果市町提出日	令和3年4月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosyoCd=2470301090-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和3年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設の運営母体は医療法人のため、入居者様の日常的な健康管理や緊急時の対応は万全です。法人の理念「尊敬・安堵安心・真心」に沿ってグループホーム独自の理念を「笑顔で作る優しさの輪」として3つのお約束を作り、いつも笑顔を決めず、入居者様と家族様、職員の3つの輪を大切に、和気あいあいと生活しています。又、馴染の音楽を通して心身の活性、精神の安定を図っています。石薬師町は歌人佐々木信綱生誕の地です。唱歌「夏は来ぬ」に歌われている「うの花の垣根」に囲まれた当施設は、庭には実のなる木が植えてあり、緑が溢れ、四季の移り変わりが楽しみでもあります。ご縁をいただいた入居者様は、ご希望により終末まで対応させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して18年目を迎える2ユニットのグループホームで、玄関を向かい合せてデイサービスがある。近くに同一法人が運営するショートステイと居宅介護支援事業所があり、母体のクリニックとも地理的に近く、医療と連携ができて安心できる体制である。昨年コロナウイルス感染防止のため、地域との付き合い、運営推進会議の中止、面会や外出の制限を余儀なくされている。利用者の季節感も感じる手作りの貼り絵がいくつも壁に貼られて、目を引くリビングや廊下である。現在の管理者が赴任してから、調理にセントラルキッチン方式を導入し、カロリーなど正確に計算されているので、これを利用してから糖尿病の利用者の数値が大幅に下がって改善できて効果があったとの報告があった。厳選して選んだ業者によるこの方式は、清潔で美味しく作られて利点も多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に職員全員で作ったグループホームの理念「笑顔で作る優しさの輪」と3つのお約束を毎日朝礼時に唱和し共有し、それらの理念に沿ったサービスを日々実践している。	法人の理念、グループホーム独自の理念を毎日の朝礼で唱和している。特に言葉遣いには気を付けて、“です”“ます”で終わる丁寧語を使うように指導をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、役員の方が定期的に広報誌を届けてくださる際に情報交換をおこなっている。只、新型コロナウイルス感染症が本市でも広がり、自由に交流ができなくなっている。今までは多種多彩なイベントに参加していた。	コロナ禍でイベントなどはほとんどが中止になっている。活動が制限されている中、ボランティアの方が自分たちの活動中のDVDを届けてくれ、鑑賞して楽しんでいる。事業所の会報を自治会長、老人会長や民生委員の自宅に届けて現況をお知らせしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域交流の場で認知症の方の対応や日々実践しているケアについて情報発信してきた。地域の高校からインターンシップの受け入れも感染症の件で自粛となったりと、地域貢献の場が現在はストップしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、利用者家族、自治会長、民生委員、老人会会長、主治医、地域包括支援センター職員、介護相談員が出席し、偶数月第3土曜日19時～20時に開催している。いただいた情報や意見はサービス向上に活かしている。	令和2年2月に開催して以後は新型コロナウイルス感染防止のため中止している。中止について、広域連合や地域包括支援センター、自治会長はじめ参加者に事業所便り「うの花便り」を持参、もしくは郵送してお知らせをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	関係書類等は直接担当者に提出し、その際には事業所の実情や取組等も伝達している。介護相談員が来所時には写真や掲示物を通して様々な取り組み等を伝達しているが現在は感染症対策にて中断している。	広域連合、地域包括支援センターへは出向くこともあり、電話等で連絡を取っている。研修はFAXなどで送られてくる。また、地域包括支援センターを通じてこの事業所で利用をしている方があり、様子などの問い合わせがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針やマニュアルに沿って「身体拘束をしないケア」を実践している。新任・現任研修で学び理解しスピーチロックにも気を配り、その人らしい支援に取り組んでいる。夜間以外は玄関は自動ドアにし誰でも出入りできるようにしている。	身体拘束等の適正化委員会を立ち上げている。会議で拘束の弊害について研修を実施している。玄関は外の門扉を含めて、施錠はしていない。	適正化委員会開催、全職員対象の研修について回数等の再確認を行い、適切に実施するとともに委員会開催時の議事録を整備し、より一層に適正化に向けての取り組みを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修計画に掲げ学び、日々のケアの中でも常にそのような行為がないか注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用中の入居者へ成年後見制度への移行が必要になり支援をおこなった。又、入居者の家族の支援でも地域包括と協同で成年後見制度導入に向け支援している。事業所玄関にパンフレットを置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を十分にとり書類を確認しつつ、質問を伺いながら丁寧に説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会を年2回開催し気軽に発言できる場を作っていたが、感染症対策のため一時中止している。面会も自粛させていただいているため、毎月のお手紙や電話、ラインでのやり取りでお気持ちをきかせていただいている。	コロナ禍で面会は制限しているが、職員が利用者の様子を描いた手紙と事業所便りを写真とともに渡している。ラインを使って動画配信をいたり、写真や手紙、ラインなどで家族とはコミュニケーションをとっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見等は、その都度管理者がくみとり、毎週おこなっている運営会議で報告し善処している。その他軽微な意見等は「リクエスト・シート」を活用し迅速に対処している。	運営会議やリクエストシートで意見が出されている。備品等の要望も出て、入浴のシャワーチェア、食器の補充、炊飯器の買い替えなど要望し認められた。グループホーム専用の車の購入を要望して実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は人事考課制度を活用し、各職員の努力や実績を反映させている。各職員の「やる気」に繋げ、向上心を持って働けるよう職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部から届いた研修の案内は事業所内に掲示し、職員が積極的に参加できるように支援している。最近ではリモートでの研修となっている。事業所内の研修は現任研修計画に沿って実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所連絡会の会員になり、同業者と交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の準備として関係機関から様々な情報をいただいている。本人と面談時には困りごとや意向などの聞き取りをおこなうと同時に、言葉では表現できないようなことは、表情などから推測できることもあり、しっかり受け止めて関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱えている不安や要望をしっかりと把握するように努めている。気軽に話していただけるような環境を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向が合致していないケースも沢山見受けられる。在宅生活が継続できるような様々なサービスの活用等の提案もおこなった上で入居の判断をしていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の嗜好や得意としていること、残存能力等を見極め、人生の先輩である入居者の皆さまから教わる姿勢での関係作りを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症対策のため面会にはお越しいただけない状況にありますが、電話やお便り、メールやラインで当所での暮らしの様子等をお伝えしながら、本人と家族の絆を大切に、家族と一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の娘さんから毎日電話を数回受けている。本人にお伝えすると発語はできない方ですが表情が明るくなる。他の方々もラインでの動画を活用し関係を支援している。又、友人からの手紙の代筆をおこない良い関係が続いている。	歌人佐々木信綱館での短歌の会に入居後も通っていた利用者が脱会したのを機に、現在は毎月お題を決め、うの花便りにコーナーを作って掲載をお願いし、今も尚、短歌に親しんでいる。友人からの手紙の代筆を職員が行い、現在も良い関係が続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気持ちが通じ合う利用者同士の交流を大切に、必要に応じて職員が間をとったり、席替えをしたりと利用者同士が関わりを持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて相談等に応じている。状況を伝えてくださる家族や訪問して下さる家族もいらっしやる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意向を伝えられる入居者は数少ない。日頃の行動や表情、そして、何気ない会話も大切にしている。各職員が得た情報を共有し、一人ひとりの思いや意向の把握に努め、本人本位に支援している。	動作・表情などから思いを把握している。一人ひとりに寄り添う介護を実践し、寄り添って思いを聞いている。買い物好きの利用者がコロナ禍の中で行けないので、事業所で仮想通貨を作り、利用者の欲しそうな品物を用意して、擬似買い物ツアーを企画して楽しんでもらう支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に過去の生活歴や暮らし方等を記入していただくシートを家族に渡し記入していただき参考にしている。入居後は本人からのさり気ない会話等から把握し支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの心身の変化に気をつけて支援している。心身の状況はその時々により変化するので毎日の記録や申し送り等で共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすために職員の気付きを大切にしている。気付いたことはリクエストシートに記入し話し合いを持ち計画に反映している。計画担当者は毎月モニタリングをおこない定期的にカンファレンスを実施し見直しをおこなっている。	管理者・介護支援専門員でアセスメントをとり、サービス担当者会議を経て介護計画書を作成している。医師からは居宅療養管理指導が届き、介護記録や介護支援経過書を参考に介護支援専門員がモニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は計画を記載してある介護記録用紙に毎日の支援を記入している。計画担当者は毎月支援経過を記載すると同時に訪問診療時の医師のコメントや服薬状況も記載し共有できるように個別記録と一緒に綴じており、職員は適時確認し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外泊や外食、買い物等の支援を、要望により柔軟に実施してきたが、現在は感染症問題があり実施できない状況にある。又、地域活動も同じく普段おこなってきたことができなくなっているが、その代わりに施設内での楽しみ作り力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来訪やイベントに参加等、地域の方々の協力を得ていたが、現在は残念ながら控えなければならない状況にある。演芸ボランティアの方が独自で編集したDVDを届けてくださって楽しみを作ってくくださった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人理事長である医師が主治医として月2回訪問し診察をおこなっている。又、治療が必要時には運営母体のクリニックへ支援をおこなう。専門外の受診人は家族とともに職員が同行し適切な医療を受けられるように支援している。	利用者全員が母体の法人の理事長が主治医である。月に2回訪問診療を受け、医療連携により訪問看護が毎週1回ある。医師は24時間対応、往診もいつでも可能である。何かあればすぐに連絡して指示を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は職員としては不在だが、毎週1回クリニックの看護師が入居者全員の健康チェックに来訪している。状態が悪い時や痰の吸引時にも対応する他、主治医とのパイプ役として支援している。医療と24時間連絡が取れる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な場合は、主治医より入院先の紹介と詳しい情報の提供があり、安心して治療が受けられる体制にある。入院中は病院職員と連携し、本人の心身の状況を踏まえ早期に退院ができるように支援をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者、家族は、最終まで当所で暮らしたいとの要望が増え、それにより柔軟な対応が必要となっており、入居時に重度化した場合の対応や終末期の支援等を説明している。そのような時が来た場合は主治医と家族、職員が十分話し合い、看取りの支援をおこなっている。	看取りはする方針であり、指針もある。医療と連携はほぼ万全であり、本人はもとより家族の思いも変化するので、終末期を迎えたら、医師・家族・職員と十分な話し合いをして、事業所では医療行為はできないことも説明し、利用者にとって最善の方法を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、毎年消防学校でおこなわれる救急法の研修や実技講習に参加している。本年度は感染症の件で参加はなかったが、施設内でDVDを使い学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々と訓練を実施していたが、本年は感染症対策のためおこなっていない。施設内では毎年年2回の避難訓練をおこない、様々なケースを想定して実施している。ヘルメットと懐中電機は手の届くところに置き防災頭巾も作ってある。	令和2年度、6月・12月に避難訓練を実施した。利用者用に防災頭巾を揃えていたり、職員用のヘルメットがリビングの目につくところに置かれている。備蓄も水・食料品など準備している。今後、地域での福祉避難場所として提供したい考えは持っている。	地域密着型の事業所として今後、地域の協力をえた防災訓練が求められる。隣近所、自治会長や民生委員などに声がけし訓練の協力要請をするように期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき言葉かけや対応にも尊厳の気持ちを持って接している。入居者一人ひとりの生活歴や特性等を把握した上で人格を尊重し丁寧な言葉で対応している。トイレ誘導時等もプライバシーを損ねないように配慮している。	居室の入り口ドアは一部がガラス張りになっていたのを、目隠しをして内部が見えないようにした。言葉遣い・声がけには注意し、配慮して対応している。個人情報保護の遵守や接遇マナーの研修も実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から本人の本心を探ったり、思いや希望が話しやすいような会話を心掛け、又、表情等で思いを汲みとれるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の心身の状態に合わせた時間の過ごし方をしてもらっている。起床時間や就寝時間も本人のペースに合わせ、心地よく生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常は季節に合った衣服の着用を支援し、お誕生日や行事の時等はおしゃれ感を楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の重度化対応のためセントラルキッチンで作った食事をクックチル方式で提供している。メニューも豊富で入居者は勿論、家族からも好評を得ている。ワイワイとたこ焼きパーティをしたり、焼き芋やパン作りも楽しんでいただいている。食パン大福は好評だった。	セントラルキッチン方式を導入して、レトルトになった食材が配達される。業者は厳選して選んでおり、いつもおいしい物が提供されて利用者は大変喜んでいる。このクックチルを利用してから、利用者の糖尿病が改善して、この導入は効果があったと評価している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食後のコーヒーを毎日楽しみにしている方やこだわりのある緑茶を飲まれる方等、飲み物は好みにより用意し水分量は十分確保できている。管理栄養士が立てたメニューで栄養バランスは非常に良い。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	残渣物が口腔内に残らないように、毎食後の口腔ケアをおこなっている。義歯は每晚洗浄剤を使用し清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄記録により一人ひとりに合わせたトイレ誘導をおこなっている。体調不良で一時的にオムツやリハビリパンツになった方も回復すると又布パンツで生活していただいている。	布パンツでの利用者もあり、オムツの利用者が数名、リハビリパンツ・パット等を活用している。トイレでの排泄が自立支援につながるとトイレでの排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動など身体を動かす支援と野菜が豊富な食事で配慮し、好みの飲み物をお出する等、十分な水分を摂っていただいている。食事や水分は摂取量を記入し不足の方には工夫して提供し予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の好みと心身の状況に合わせた支援をおこなっている。お湯は一人ひとり入れ替え、入浴剤も好みにより選んでいただき、ゆず風呂など季節ならではのお湯も楽しんでいただいている。	入浴は週に2回、午前・午後ともに入浴可能である。風呂の湯は一人ひとり入れ替えて、いつでも一番風呂を満喫してもらっている。入浴剤も楽しみになっており、自分の好きなものを選んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や心身の状況により支援している。お部屋の温度や照明に配慮し、安眠できる環境を作っている。ラジオや好みの音楽を聴きながらリラックスして眠りにつくなどの支援をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬管理をおこない確実に投薬できるように支援している。薬品庫には個別の棚に薬とともに処方箋や薬手帳を用意しており、職員は薬の内容を把握し理解して支援し、新しく処方された薬は内容や副作用などを回覧して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や日課を継続できるような環境作りをおこなっている。新聞や雑誌はテーブルに置き自由に読むことができ居室への持ち込みも可能としている。馴染の歌を音楽に合わせて一緒に歌う会や懐かしい映画会、紙芝居などを適時実施し気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会を沢山作り楽しんでいただいていたが、感染症対策にて自粛していただいている。季節感を味わっていただくように少人数ずつドライブにお連れしているが、皆さん、帰りに喫茶店へ寄ろうかと話される。今までおこなってきた楽しみ事が中断していることを残念に思っておられる。	事業所の裏手周辺へ散歩に出かけている。そこは桜並木になって花見も楽しめる。コロナ禍が収束後は、事業所近くのフラワーパークや神社仏閣に出かけたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金制度をとっており、個人的にお金を所持することはないが、買い物に出かけた時はお金を渡し買い物の楽しみを味わっていただいている。施設内で使える通貨を作り定期的にマーケットを開き買い物ができる環境も作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方には施設の電話を使っていたりしている。ラインで動画のやりとりを支援しており家族からも喜んでいただいている。友人に手紙を出す支援をおこない、お便りや荷物が届くことを心待ちにしておられる方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広くて日当たりの良い空間での生活は、とても居心地が良い。季節感のある壁画に加え、皆さんの笑顔の写真も飾っている。家族が来られても一緒に座ってお話できるようにソファも置き、1日中リビングで過ごす方もいらっしゃる。天井からの採光を浴びながら毎日リハビリもおこなっている。	天窓がいくつか設備してあるので大変明るく、壁には大きな貼り絵の作品が飾られて季節感を醸している。テーブルは分かれて座り、ソーシャルディスタンスがとられ換気もしており、気になる臭いはしない。リビングに洗面場所がなかったので設置された。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は相性の良い方同士で考慮しているが、ソファで寛いだり、リクライニングチェアで居眠りしたり、読書コーナーで過ごしたりと、自由に過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	電動ベッド、クローゼットは備え付けで用意しているが、後は自宅ですべて使っていた馴染の物を持ってきていただいている。家族はアルバムを用意したり居室内を綺麗に飾り付けたりと、本人が心地よく過ごせるように工夫して下さる。	自分用の丸型のテーブルに素敵なクロスを掛けて、椅子や本、筆記具などが置かれている。また、連れ合いを祀った仏壇やテレビ、収納ダンスなど置かれてそれぞれ思い思いの居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が安全に生活できるようにと、動線を確保し手すりも追加で取り付けた。又、トイレや居室の場所などは良くわかるように掲示を工夫している。		